

4月からの小郡・三国幼稚園統合で

幼稚園、落ちた！

市の対応まずく保護者の不信深刻

小郡市議会議員 しんばる善信後援会だより

つなぐ

発行
しんばる善信後援会
小郡市小郡1304-2
0942-73-2123

三国幼稚園の存続を期待した保護者

加地市長、混乱を謝罪

園児の減少により4月から三国幼稚園が小郡幼稚園1園に統合されます。これに伴う入園児の募集では、定員を上回ったため抽選が行われ、11名の抽選もれ者が出ました。これら一連の動きのなかで、三国幼稚園存続問題の迷走や園児募集についての事前説明の不足など市の対応のまずさから保護者の間に大きな不信と混乱を引き起こしました。しんばる議員は、質問で子育て支援を政策に掲げる加地市長は、これまでの対応の問題点を認め謝罪したうえで、入園希望者全員を受け入れることで責任を取るべきと述べました。

加地市長は、「再検討する」と言ったのに

3年前、市が統合の方針を発表すると、三国地区の保護者等から存続を求める強い要望が出されました。これに関し、一昨年の市長選挙で加地市長は再検討を表明し当選しました。



広報訂正記事が 混乱に拍車

昨年10月、広報おごおりに「平成31年度から市立幼稚園を統合」の記事が載りました。ところが、市長はこれは誤りとして12月号で「三国幼稚園の今後の在り方については、市民の皆様との意見交換や地域の子育て環境などを考慮しながら、検討することとしています。」と訂正しました。まるで統合を否定するかのような内容です。異例な形でわざわざ出されたこの訂正記事を見た多くの市民、特に存続を強く求めていた保護者は、三国幼稚園存続の期待を大きくしました。

問い合わせに「まだ決まっています」の返事

以来、保護者は三国幼稚園はどうなるのかと、市に再三にわたり問い合わせしてきましたが「まだ決まっています」との返事でした。

体験入園者「めだかクラブ」に説明なし

小郡幼稚園は、以前から園児確保のため体験入園「めだかクラブ」を開設してきました。そこに1年以上参加し、当然幼稚園に入れると思っていた人たちに対し市は事前説明なく抽選を行い、何人も落ちてしまいました。そのショックは大きく、小郡市のやり方に強い不満が出されました。

市長謝罪するも、全員受け入れは否定

市長は、「入園希望者、市民への説明会を開催せず、めだかクラブへの事前説明しなかったため入園できなかったことは反省し、心よりおわび申し上げます。また、12月広報の訂正記事が混乱を招いたことについては、率直におわびを申し上げます。」と謝罪しました。しかし、全員受け入れについては新たな問題を生むとして否定しました。

幼稚園統合初年度に限り 希望者全員受け入れの請願 9対8で採択、市長に提出

請願を出した三国幼稚園を考える会

小郡・三国幼稚園統合計画の 情報開示と説明の遅れを指摘

4歳児、4名の待機者

来年度の小郡幼稚園の定員は、3、4、5歳児それぞれ60名となっています。

昨年まで、三国・小郡幼稚園共に定員を大きく割り込み全員入れていましたが、来年度から1園になることや新たに3年保育、預かり保育をすることなどから予想に反して応募が多く、定員をオーバーしたため抽選せざるを得なくなりました。

しかし、市から保護者・市民に対し統合や抽選などの説明が遅れたため、入園を希望していた保護者は園選びの時期を逃してしまいました。保護者等は、このままでは子どもの成長と家庭生活への影響が大きいとして希望者全員の入園を求める請願を議会に提出しました。

過ちでは、これを改めるに憚ることなかれ
過ちてなお改めざる、これを過ちという(論語)



請願に賛成討論するしんばる議員

請願は付託された保健福祉常任委員会では賛成少数で不採択となりましたが、本会議では、賛成多数で採択され、議会の意思として加地市長に提出されました。しんばる議員は、次のような賛成意見を述べました。

加地市長が当初、三国幼稚園の在り方を再検討しようとしたこと自体は間違っていない。ただ、その後保護者に期待させておきながら結論を先延ばしにし、結果的に入れない子どもが出たことに対しては責任を負わなければなりません。

請願採択の重み 改めて申し入れ

請願採択翌日の新聞に「加地市長は、受け入れられる態勢づくりを行政の責任として取り組むと話した」と載り、関係者は喜びました。ところが、数日後の新聞では「定員増を再否定」「受け入れ困難」の記事。一体全体どうなっているのかわからなくなりました。

そこで議会は、再度加地市長に対し説明を求め、市長は、年明けの4日、議会に経過を説明しました。これを受け、議会は市長に対し全員受け入れに向け最大限の努力を行うよう改めて強力に申し入れました。

抽選落ちた保護者の訴え

◇10月1日の広報に出るまで何も情報はなく先生に尋ねても「私たちもわかりません」と返ってくるだけでした。・・・そして、抽選に落ちてしまいました。抽選会場はとても悲惨で受かった人も素直に喜べない、ほとんどの人が泣き崩れ私もその一人でした。

◇あれだけ抽選もれた人たちにはしっかりと対応していくと言っていたのに・・・言っていることとしていることが違いすぎる。

◇幼稚園入園にあたり、8月市役所を訪れました。その時は男性の職員に、三国幼稚園と統合しますがそんなに多く入らないと思うので入れますよ！と笑顔でおっしゃってありました。

◇市のやり方があまりにもひどく、ずさんで、保護者のみならず、大切にすべき子どもが傷ついています。市が招いた混乱を重く受け止め真摯に対応してもらいたい。

教師にも子どもにも過大な負担

中学校部活はこのままでいいのか？

教育委員会の方針出たが、効果はまだ

中学校部活動に係る方針 小郡市教育委員会

○毎週平日に1日、土・日に1日を部活動休業日とする。

○活動時間は、平日は朝練を含めて2時間程度、土・日曜は4時間程度とする。

○方針に反した場合は是正のための催告及び指導を行う。

増え続ける大会、土日に

中学校部活の大会は、中体連主催の夏の大会と秋の新人大会が中心ですが、それ以外に様々な大会が年を追うごとに増えています。競技団体それぞれ熱心さゆえのことですが、否応なく大会に向けた練習時間は増え、土日に練習試合が集中するという実態です。そのことが結果的に顧問や生徒を苦しめています。

教師の間に意識の差

このような過酷な状況でありながら、教師の中には生徒のためなら仕方ないとか中にはやりがいがあるの

で苦にならないという意見があるのも事実です。一方で、半数以上が未経験の部活顧問を受け持たされて苦勞している姿もあります。

検討委員会の設置必要

スポーツ庁は、中学生の時期にはスポーツ医科学の見地から休養が大切だと指摘しています。この他教師や保護者の間にさまざまな考えがあり、方針が出されても対応がバラバラでは効果は期待できません。しんばる議員は、関係者が問題について真剣に話し合い改善の意思統一をはかる検討委員会設置を提言し、教育長は検討すると答えました。

加地市長の私的諮問機関 建設検討委員会の中間報告出る

新体育館は本当にできるのか？

当初計画を大幅に縮小

基本計画では、8,300㎡だった延べ床面積が6,000㎡程度に縮小され、メインアリーナ、サブアリーナともに狭くなっています。また柔道場、剣道場がそれぞれ2面から1面に、観覧席が5,600席から3,400席に減らされました。

事業費40億から30億に

基本計画の事業費40億円の財源確保は現在の小郡市の財政状況では厳しいので30億円程度にコストを削減するとしています。財源は、国の補助金や民間資金の活用を総合的に調査・研究することです。また、建設場所については、用地費等の建設コスト削減を考慮して決定するとあります。

災害時は避難所に

災害発生時の避難所としての活用は必須で、高齢者が利用しやすい施設とし、空調設備は全館設置の方向で進めるとなっています。

運営・管理は指定管理で

建設後の運営・管理は、営利目的より市民主体の体育館運営を目指すので民間企業ではなく、既にある社団法人小郡市スポーツ協会を核に専門分野の民間企業が提携する指定管理が望ましいとあります。

早急に建設を

いざれにしても、困難はあるが早急に建設するよう努力するとなっています。

小都市の外国人983人 共に暮らすために

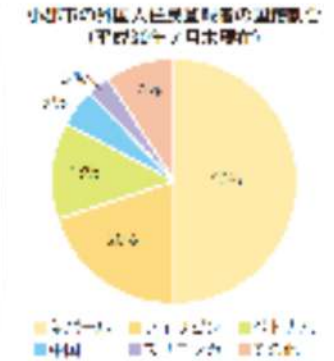
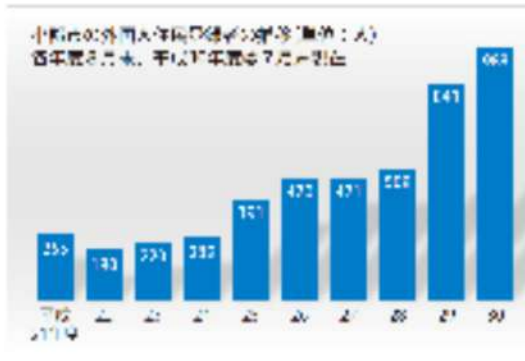
最近、市内で外国人を見かけることが多くなりました。市内2つの日本語学校への留学生が大半を占めています。彼らは、鳥栖の流通団地を中心にバイトしながら学んでいます。賃金は、最低賃金の時給814円程度です。文化、生活習慣の違いから地域でトラブルが起こることもあると聞きます。逆に、地域の人々と良好な付き合いをしている話もたびたび聞きます。今後ますます増えていくことは確実です。互いを尊重しながら暮らしていく道を探っていききたいものです。

この1さつ



これからの日本、
これからの教育
前川喜平／寺脇研 著

「君たちは、公務員である前に尊厳ある個人であり主権者たる国民だ」
これは、前川氏が文科省の後輩に向けて言った言葉だ。前川氏を有名にしたのは、氏が文科省天下りの責任を取って次官を辞職したあと、



福岡県退職教職員協会 地域教育文化事業

元文部科学省事務次官

前川喜平講演会

「これからの日本、
これからの教育」



期 日:2月17日(日)13:00開場
13:30開演

会 場:小都市文化会館大ホール

入場料:おとな¥500(当日券あり)
小中高生以下 無料

議案(つぼね)

市議会に与野党なし

国会には政権党である与野党があり、政策をめぐってしばしば対立します。それでは、小都市議会はどうでしょうか、残念ながら時折いわゆる市長寄りの党派とそれ以外の党派という形があらわれるときがあります。

しかし、これはあまりよいことではありません。なぜなら本来、市議会は様々な市民の代表が集まって政策について議論し、合意したことを市長に提言したり、市長の提案をチェックしたりするのが役目だからです。

だから、与野党対立ではなく、議会対市長であるべきなのです。ともすると政策議論ではないところで対立が見られるのは、憂うべきことです。

感情に流されることなく冷静に市民生活の客観的事実に拠るべきと自らを戒めています。(よし)